



# いのちのきりたん

21号  
2015年3・4月号

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭

吉祥寺

三鷹

井の頭恩賜公園開園100周年まであと2年2ヵ月

INFORMATION 2015年3月~4月

## 井の頭自然文化園

彫刻館特設展 Art and the Zoo Vol.1  
「磯部光太郎 —Biotop生き物のいる場所—」  
日本画家・磯部光太郎さんの作品展。小さな生き物たちの世界を生きたりと描き、移り変わる四季の美しさが表現された作品をご覧ください。  
日時 2015年2月25日(水)~4月12日(日) 9時30分~16時30分  
場所 動物園(本園) 彫刻館B館

磯部光太郎作品



詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

## 井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 3月1日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 3月8日(日)、3月22日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 3月12日(木)
- ツリー☆マジック(第二公園) 3月14日(土)、3月22日(日)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html に載せます。

## 【イベント】

- 飼い主のいない猫の譲渡会(野外ステージ) 4月19日(日)
- 吉祥寺音楽祭(野外ステージ) 4月26日(日)

## 井の頭かんさつ会

- 第119回「早春の花」 3月22日(日) 10:00~12:00
- 第120回「カイツブリ」 4月26日(日) 10:00~12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

**募集**  
井の頭公園の古い写真を集めています  
◀昭和25年頃の井の頭池  
写真提供：鈴木育男氏

2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。  
なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ ぶんしん出版 ☎0422-60-2211 (担当:宮川)  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

## 井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その2

ツシヤママネコ と 佐々木真一さん

ツシヤママネコは長崎県対馬だけに70もしくは100頭が野生で生息し、10年で1割ずつその数を減らしていると推測されています。32頭が国内10ヶ所で保護され、そのうち7施設で繁殖を行っており、井の頭自然文化園はその1つで、3頭が暮らします。

生まれて6ヶ月もしたら親元を離れ、オスもメスも単独行動をするツシヤママネコは、カップルになるのがとても難しいそうです。ちょうどパレンタインデーのころが発情の時期ですが、低い声で鳴き合うなどの発情行動を人前では見せないで、仲人役の飼育員の気苦労は尽きません。「仲が良ければ夜間同居させられるのですが……。ケンカし始めたら、私がほうきを持って割って入るんです」と佐々木真一さんは苦笑い。井の頭ではまだ赤ちゃんが生まれたことはありません。

昼間、とくに天気の良い日は、小屋のお気に入りの場所でじっとしているのがツシヤママネコの習性。「リラックスする姿がかわいいので、それを見て癒やされていただけ」。ツシヤママネコは繁殖を目指し展示を休止していますが、同じ仲間のアムールヤママネコも同じようにいつもじっとしています。

小田原 潔 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

## はな子68歳のお祝い会

21 今月の はな子

生まれた日がはっきりしない「はな子」は、毎年1月1日を誕生日にしています。2015年1月1日には、無事に68歳を迎えることができました。残念ながら、この日は、動物園は休園日なので、誕生日を皆さんと一緒に祝いすることができません。そこで、毎年お祝い会を別の日に開催しています。今年は、2月1日に開催しました。

天気は快晴でしたが、あいにく冷たい風が強く吹いていました。それでも、多くの来園者がお祝い会に駆けつけてくれました。今年は、午前の式典と、午後の飼育係のお話の2部構成です。武蔵野市長・三鷹市長・タイ王国大使館などの祝辞の後、誕生ケーキ(今年は食パンをベースに、サツマイモペースをクリームにして、アンパンとイチゴをトッピング)をお披露目しました。

午後は、運動場のはな子を前に、飼育班長の室伏さんから、近況などを話したあと、おいしいイチゴ68粒をプレゼントしてもらいました。その後、寝室に戻り、誕生ケーキとご対面です。普段よりちょっと豪華なおやつに、はな子も満足してくれたのでしょうか？

来年はイチゴの数も69粒に増えていることでしょう。また、来年のお祝い会をお楽しみに！

教育普及係長 大橋直哉 ▲お祝い会の様子

井の頭公園の生き物たち その21 カルガモ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなか としあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。

渡りをしない利点

井の頭池で見られるカモの種類ほとんどは冬鳥で、夏は餌の生き物にあふれる広大な大陸で繁殖をします。それに対して、カルガモは留鳥です。井の頭池だけでなく、神田川などの川やほかの池を行き来しながら、豊富とは言い難い餌を探し、水辺の小さな茂みに巣を造って子育てをします。渡りをしない地道な生活のメリットは、長旅に要する時間を省略でき、途上の危険も回避できることです。実際、井の頭で年2回繁殖するカップルが見られます。オスも一年中地味な色なのは、渡りをするカモと違って、必ずしも毎年繁殖相手を得

21 環境は自分で作れ

前号で8羽だったカイツブリはその後も増え、2月20日の調査ではなんと14羽。そのうちの4ペアはそれぞれ縄張りを構えているカプルで、子育てを始めるため春を心待ちにしているようです。しかし心配があります。冬の彼らの主食だったブルーギルの稚魚は、水温が上がると活発になり捕れなくなるのです。今の在来小魚の数は十分ではなく、エビはさらにわずかです。春に増えれば問題ないのですが、ブルーギルが大量にいると小魚の卵や稚エビが食べ尽くされてしまいます。

かつてなくたくさんいるカイツブリが冬の間にギル稚魚をどんどん食べて減らしておけば、在来種が繁殖でき、彼らの子育ても楽になります。水生動物館のカイツブリは1日約100匹のモツゴを食べるそうです。仮に池の10羽が冬の3ヵ月(90日)間にギル稚魚を毎日100匹ずつ食べるとして計算すると、減るブルーギルの数は9万匹！さて、実際にはどうなるのでしょうか。

仲良しの二羽

井の頭かんさつ会 田中 利秋 http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/

見つけ直す必要がなく、ライバルも少ないからでしょう。カルガモのオスも子育てをしません、母子に付き添うオスがいますし、繁殖期以外にもカップルを見かけます。派手な繁殖羽にならなくて済めば、安全上有利です。

とはいえ、近年の井の頭池での子育ては順調とは言えません。来園者のエサやりが盛んだったころは池でヒナを孵す母ガモが毎年複数いましたが、エサやり目当てに集まっていたカラスにヒナが次々に捕食されました。エサやり自粛キャンペーンでカラスは減ったものの、井の頭池には自然の餌が不足していたため、母ガモは神田川へヒナを連れていき、そこで子育てをしていました。神田川には自然の餌が十分ありますが、増水もしばしば起こるため、毎年多くのヒナが流されました。

かいほり後の昨年5月中旬、池に7羽のヒナを連れてきた母ガモが現れました。当初母ガモには母親の自覚が見られず、ヒナへの目配りがまったくできていなかったため、3羽のヒナを失い、見守る人々を心配させました。しかししだいに母親らしくなり、かいほり効果で生き物が増えた池で、残る4羽の子供たちを育て上げました。オスもメスも地味で、チャームポイントはくちばしの先の黄色と、脚のオレンジ色ぐらいですが、留鳥のカルガモは暮らしぶりや子育ての一部始終を私たちにを見せてくれる、井の頭公園の大切な仲間です。

池で成長するヒナ

21 環境は自分で作れ

「楽園はよみがえるか!」

カイツブリ通言

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカプルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

連載 給水 カワセミのミドリとセミンソウは、カモ次郎に勧められ、玉川上水にかかるほたる橋の横の土手に巣穴を作りました。安心して子育てが出来そうです。セミンソウと一緒に掘った巣穴にミドリは4個の卵を産み、温め始めました。セミンソウもヒナの誕生を楽しみに、せつせと協力しています。

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

せのうさちこ 文瀬能けい子

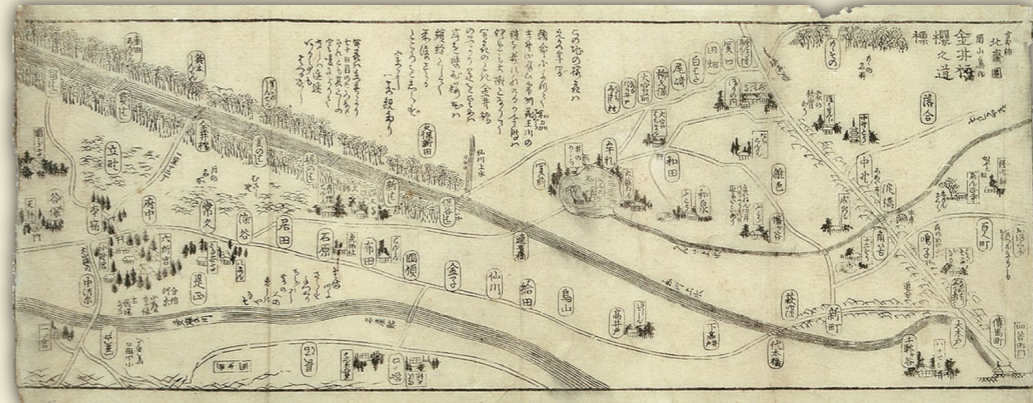




写真 古賀 親宗 (こが もとのり)  
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

小金井と井の頭、上水沿いの花の行楽

毎年、誰もが気もそぞろになる桜の季節。今か今かと待ちわびるも、寒さがゆるんだだけでは蕾は開かず、お湿りあってやっと花はほころびます。今年の開花はいつになるでしょうか。今回は、明治・大正時代の文豪・田山花袋の紀行文『東京と近郊』から、お花見の味わいについての記述を拾ってみました。



▼ 葛飾北斎「小金井櫻標」 【『井の頭公園まるごとガイドブック』より／写真提供：小金井市教育委員会】  
左上から右下に斜めに描かれた太線が玉川上水。左上に小金井の桜並木、左下に「府中六所宮」(現・大國魂神社)、ちょうどまん中あたりに「井の頭池」、右下隅に「四谷御門」

「小金井の桜は江戸時代から、もう人口に膾炙(かいしゃ)していた。昔の人も草鞋がけでよくそこに遊びに行ったものである。私なども汽車の出来ない以前に日帰りに其処に行ったことがあった。(中略)面白いもので、その時分は新聞の報道よりも、角善新町(つ)のはずしんまち(現・西新宿)を流れる上水に花の流れて来る来ないに由って、花季の遅速を知ったものだ。『また花が流れて来ないから、大丈夫だよ』その近くに住んでいた伯母はこんなことを言って私達に話した。」  
小金井の桜の開花状況を、川の流れを見て知るとは、なんとも風流。今はインターネットでそここの花の様子や映像をとまわって流れてきますが、趣には大きな差があります。

田山花袋が勧める小金井は、十八世紀中頃、八代將軍吉宗の治世に五日市街道沿いの玉川上水にヤマザクラが植樹され、桜の名所として知られるようになりました。それに対して井の頭は、一本もなかったわけではないようですが、「桜が植えられたのは戦後なので、戦前には花見客はいなかった」という茶店の証言が『三鷹の民俗 七井の頭』(三鷹市教育委員会発行)に出ています。

「小金井の花に行く次手(ついで)に、是非井頭弁天に寄って見なければいけない。(中略)ちょっと猫の額のようなところであるけれど、池と、池に蘆荻(あし)き)や葦(あし)や藺(い)などの生えていると、池の水の澄んで綺麗なと、池の中に弁天堂があるのと、大きな樹にかかって山藤の咲いているのと、何となく世離れた好い気分を起させるところである。」  
『東京と近郊』の発行は1916(大正5)年、井の頭恩賜公園開園の前年。井の頭はまだ混雑知らずで、のんびりと春を迎えていたようです。

安田知代

安田知代(やすだ ともこ)  
編集者、ライター。「井の頭公園まるごとガイドブック」(懐かしき古き書 昭和29年4月)編集。

私と井の頭公園 その21

こごが東京とは信じられない

Robert Nappa (三鷹市在住)

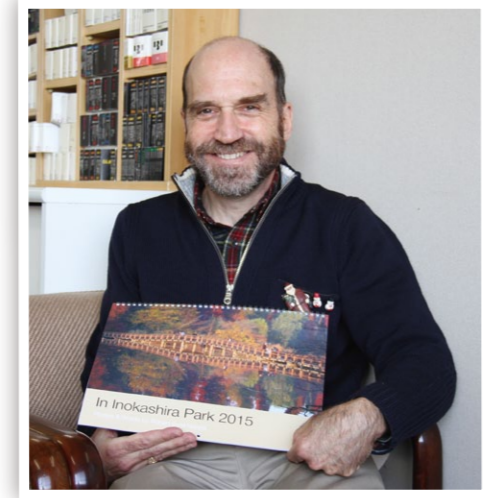
毎年暮れになると、井の頭公園の風景写真入りオリジナルカレンダーを持ってきてくれる米国ニューヨーク出身のロバートさん(56歳)。「いのきちさん」の発行に共感する、大の井の頭公園ファンである。ロバートさんは、サンフランシスコの大学で知り合った日本の女性と結婚し、公園近くに住み、英語の教師をしています。

僕は、仕事の前の早朝に、井の頭公園の散歩をするのが大好きなんです。毎日のように散歩するから顔見知りも増えました、会うと「グッドモーニング」ってね。そして美しい景色も撮っています。2011年からはその写真をカレンダーにして友人達に配っているんです。ちょっと費用がかかるけど(笑)。井の頭公園は、本当に素敵な場所です。カナダを想わせる景色は、こごが東京とは信じられません。特に、朝日が昇る頃、お茶の水橋から井の頭池が延びる東方向の景色が素晴らしい。

もちろん、美しいこごだけではなく、醜いところも見てしまいます。ですから、ときどき公園の管理人さんと会うと指摘をしています。井の頭公園はこれからも素敵な場所として続いていくと思いますが、ちょっと気になることは、池の周りの古いサクラの樹が、ここ2〜3年でかなりの数が駄目になっているように思います。特に注意を払って手入れをしてあげて欲しいですね。

(英語教師・ロバート・ナッパ)

(聞き手・写真・川井信良)



川井信良(かわいしんりょう)  
70年代80年代に、『三鷹の川』、『井の頭公園』、『いのきちさん』を執筆。

よみがえれ! 井の頭池 21

▼ 水草について学ぶ「かいぼり隊」



水草の講習会や自主研修で学びを深める「かいぼり隊」

19号でお伝えしたように、第1回のかいぼり後のうれしい出来事のひとつは、水生植物の復活です。池の水の透明度が大幅に高まり池底まで光が差すようになったおかげで、休眠していた種が発芽したのです。平成25年秋の公募で集まり、かいぼり実施以降も活発に活動を行っている「かいぼり隊」の方々も、この水草の復活に注目。外来魚駆除などのフィールドワークがお休みの冬の間は、講習会で水草の浄化作用や水中の生態系について研究者から学びました。また、普及啓発活動のスキルアップをめざして自主研修もスタートしたそうです。2017年の開園百周年に向けて、あと2回予定されているかいぼり。「かいぼり隊」の市民のみなさんが、活動をとおして学び、考え、行動しながら周囲に伝えてくれることが、よりよい環境を育んでいく底力になっていくのではないでしょうか。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。「いのきちさん」は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発行された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)



「いのきちさん」のホームページができました! 更新中!  
<http://www.inokichisan.com/>



スマートフォン対応

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。  
✉ [inokichi@bun-shin.co.jp](mailto:inokichi@bun-shin.co.jp)

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

